



廃漁網、繊維と鉛に

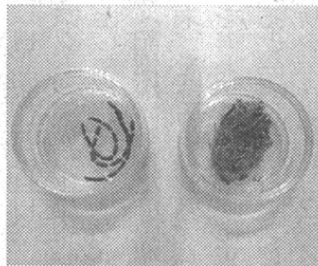
エムダイヤが分離技術

【富山】エムダイヤ(富山県滑川市、森弘吉社長、076・476・0062)は、廃漁網を繊維と、重りとして使う

鉛に分離する技術を確立した。同社が開発した携帯電話や小型家電、廃車部品など異素材混合物の分離破碎機「エコーパ

レ」に、風力による独自の選別装置を加え可能にした。処理能力によりシリーズ化し、設備全体で

1500万~1億円で供給できるようにする。



分離した繊維(右)と鉛

あらかじめ廃漁網に付着した貝などを除去後、長さ30センチ以下に粗切断し投入する。最大で毎時約300キログラムを処理する。鉛は資源として再利用、繊維は2次製品に加工するための検証を始めた。

た。漁網は海中に沈めるため、安価な鉛をロープなどに編み込むことが多い。

これまで漁網を破棄する時は手作業で鉛を除去していた。また、そのまま埋め立てることで2次汚染につながる懸念もあった。